

播種作業から出芽・苗立ちまで



播種時：播種日の前日に落水。少しやわらかめがよい。作業中に田面が硬くなったら水を入れながら行う。



播種後：播種時の落水状態のままを保ち、出芽揃いまで続ける。白く乾きすぎたら入水。苗箱育苗を連想しよう。



溝切：
田面の高低差が極端に大きいところは溝切を行い、苗立ちが揃うように努める。この時溝切を終わってもよい。



覆土しないときの田面：播種直後に少し入水して播種した溝に水が通るようにする。出芽の促進とすずめの害を防ぐ。



苗立時：ここまでくれば落水の必要なし。苗の大きさに合わせて水の量を増やしていこう。



苗立時において水が足りない状態：これ以上落水を続けるとひび割れが大きくなりすぎて水管理がむずかしくなる。